六甲山系シダ植物の分布

白　岩　卓　己

1. はじめに

「六甲山系植物誌」（増補）には14科51属96種，変種10のシダ植物が記載されている。未だ記載もれのものもあろうし，まだ調査されていないものも残っているだろう。

徐々に遅速ではあるが，ここ10年余り，機会が持てるたびに六甲山系を歩き，シダの分布の調査をしてきた。目録の作成はまたの機会にゆずるとして，歩いて調査しているうちに，シダ植物の分布から，おおまかではあるが六甲山系の植生区分ができるのではないかと考えるようになってきた。

2. 六甲山系の区分とシダ植物の分布

(1) その概要図

以下述べるのはその概要であるが，シダの分布からのこうした区分は当然，シダ生育の環境条件となる湿度・温度と密接な関連をもっている。すなわち，この区分が狭い範囲ではあるが，六甲山系の湿度・温度・日照などのある尺度を表わしているのではないかと思う。

いまだ未調査の場所も多く，大きなわく組みで，個々の場所では区分からはみだすところもあるが，仮説としての区分を設定し，今後の調査の方向づけにするとともに，確実にその裏づけをしていきたい。

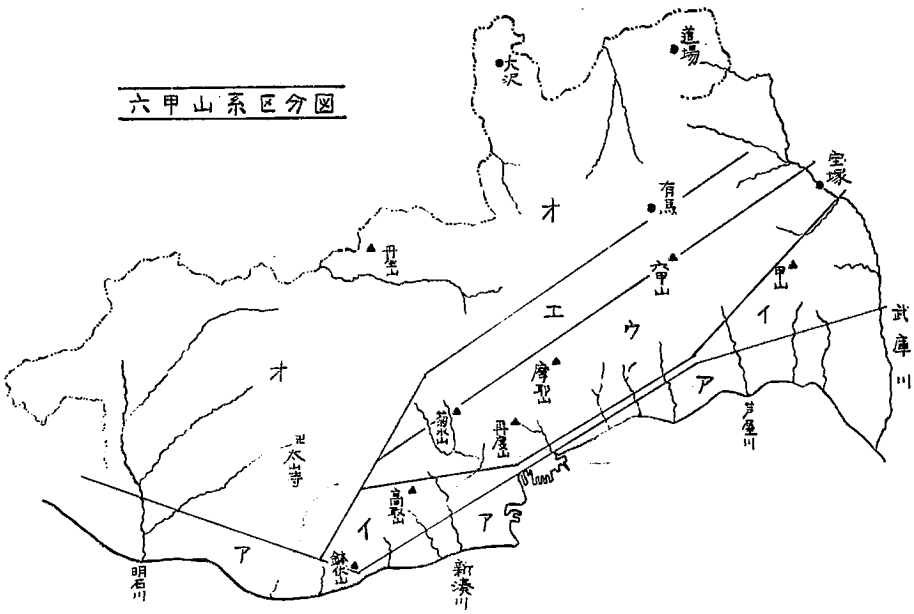
(2) 各区分とシダ植物の分布

以下で，各区分の主な場と特徴的なシダをあげる。

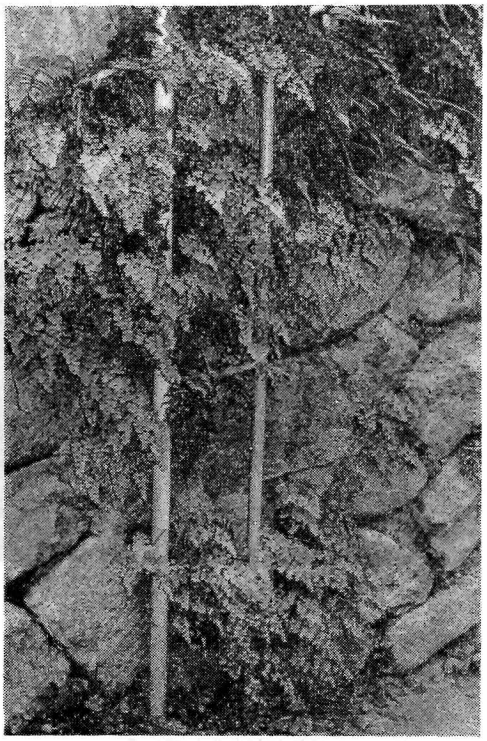
ア．市街地域

六甲山系の南面の市街地（山間部は除く）には，暖地性及び耐乾燥性のシダが分布している。石垣，みぞなどに自生しているものが大部分である。オニヤブソテツ，イノモトソウ，ベニシダ，タチシノブ，カニクサ，トラノオシダ，ノキシノブ，ヒメワラビ，トキワトラノオ，ホウライシダ……。このうち，トキワトラノオ (Asplenium Pekinese Hance) は布引，六甲登山口のごく限られた場所にしか自生していない。布引の市街地のものの大部分は「新神戸駅」の工事で姿を消した。

ホウライシダ (Adiantum Capilus-Veneris L.) は六甲山系市街地の代表的なシダといえる。本来，四国，九州以南に広く分布するシダであるが，神戸の市街地をはじめ，芦屋，西宮，宝塚の各地に生える。温室栽培品がとび出て広がったものと思われるが，野生化し，本来の自生地よりよく成育したものもある。



家庭の栽培品としては普通，トクサ，ヒトツバ，シノブ，イワヒバ，クラマゴケなどがある。



1．ホウライシダ

イ．表六甲低山地を中心とした地域

須磨鉢伏山・鉄拐山・横尾山・高取山から東部の保久良山・甲山に至る地域である。

ここでは，暖帯林のヤマモモ，ウバメガシ，クスノキ，タブノキ，クロガネモチ，ヤブニッケイやアカマツ，コナラなどの雑木林が優占する。

したがって，この樹林下には次のような乾燥に耐えるシダが自生する。

コシダ，ウラジロ，ベニシダ，イタチシダ，フモトシダ，ホラシノブ，コモチシダ，イワヒメワラビ，オニヤブソテツ……。

2．アマクサシダ

適当な湿度で好環境であれば，アマクサシダ (Pteris dispar Kunze 須磨)，コウザキシダ (Asplenium ritoense Hayata 芦屋) の暖地性のシダも分布する。

ウ．表六甲山岳を中心とした地域

再度谷〜再度山・布引谷〜摩耶山・六甲山南面〜頂上付近にかけての地域で，六甲山系としてはスギ，ヒノキの植樹林をはじめ，シイノキ，カシ（アカガシ，シラカシ，ウラジロガシ）クス，ツバキなどの自然林に恵まれている。

したがって，ここではシダ生育の好環境となるところが多く，暖地性のシダや好湿性のシダの分布がみられる。

暖地性シダとしてクリハラン，ヘラシダ，ヒトツバ，マツバラン，オオカナワラビ，ホソバカナワラビ，コバノカナワラビ，オニカナワラビ，ハカタシダ……がある。

好湿性のものとして，イノデ，アイアスカイノデ，ドウリョウイノデ，オホソバイヌワラビ，ヒロハイヌワラビ，カラクサイヌワラビ，ヤマイヌワラビ，リョウメンシダ，ミゾシダ，シケシダ，クジャクシダ，ハコネシダ……が生える。

3．ホソバカナワラビ

エ．裏六甲を中心とした地域

六甲山頂から北の紅葉谷，地獄谷，石楠谷，船坂谷……の谷筋を中心とした，頂上に近いブナ，アセビ林からアカマツなどの雑木林が優占する地域である。

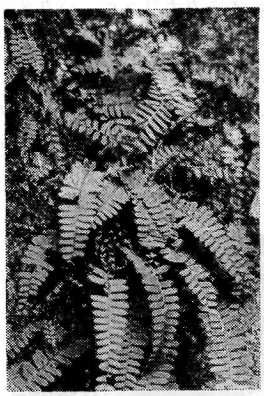
ここは明らかに他地域と異なり，特徴的な好湿性，温帯シダが分布している。

オウレンシダ，ツルデンダ，エビラシダ，ハクモウイノデ，ツヤナシイノデ，ヤマイヌワラビ，コケシノブ，キヨタキシダ，クジャクシダ，ハコネシダ，オサシダ……。

このうち，エビラシダ (Gymnocarpium oyame-

nse (Bak.) Ching) は兵庫県唯一の自生地であり，近畿地方でも紀伊半島ほかまれにしか分布していないシダである。水害で谷筋の変化の著しい六甲山系にあって，昭和43年の水害で自生地付近は荒れ，今では絶滅状態である。

4．オサシダ



5．ツルデンダ

6．エビラシダ

オ．西神戸，北神戸の地域

六甲山系の西部及び北部にあたるところで，アカマツ，コナラなどの雑木林を主とする地域である。

この地域のシダの分布は六甲低山地（イ）のシダ分布とほとんど変わらず，谷筋を除いては貧弱である。ベニシダ，コシダ，ウラジロ，シシガシラ，ハリガネワラビ……。

ただし，この地域は広く，次のような例外地を含んでいる。

① まず，北神戸地域の一部には温帯的要素のヤマドリゼンマイ（谷上），クサソテツ（有馬）などが分布する。六甲山系には少ないヌリワラビもある。

② 太山寺原生林は暖帯林であり，その林下には暖地性のシダが約60種分布している。

カナワラビ属 (Polystichopsis) のコバノカナワラビ，ホソバカナワラビ，オニカナワラビ，オオキヨズミシダ，ハカシダをはじめ，ヒトツバ，ヘラシダ（葉身30cm以上）などである。

③ 山田町のこうもり谷付近も太山寺と同じく暖いところで，クリハランやシシランがある。

また，丹生山にはイノデ，イノデモドキ，カタイノデ，サイゴクイノデ，サカゲイノデをはじめ，雑種のミツイシイノデ，カタイノデモドキ，ハリマイノデとイノデ属 (Polystichum) の群生地がある。

7．ミツイシイノデ

④ 櫨谷町の寺谷も太山寺の近くで，湿度も高く，暖かい洞窟のあるところがあり，そこにはヘラシダ，ハイホラゴケ，ハカタシダ，ハコネシダ，リョウメンシダなどが自生している。

以上の例外地のシダ分布からみると，①を除いて，②，③，④は表六甲山岳（ウ）の中に含まるといえる。

3. まとめとして

六甲山系を五つの地域に分けて，そこに分布する代表的なシダをみてきた。その五つの地域で分布するシダは明らかに異なっている。

しかし，全体的にみて，六甲山系のシダは，その高さ，広がりの割合において豊富だとはいえない。それは六甲山系の成因，自然環境と関連するからである。六甲山系の湿度，温度などの環境がフイルターとなって，シダの分布をも規制しているのである。

川の流れに沿って多く自生する六甲山系のシダは水害とともに受難の歴史をたどる。水害のたびに川筋が洗われ，そのたびに流され，ある種類は絶滅していく。この10年間だけからみても，再度谷のウラボシノコギリシダ，ヘラシダ，オオクジャクシダは完全に姿を消し，紅葉谷のエビラシダも同じ運命をたどっている。最近の六甲山系の歴史はシダ後退の歴史であるともいえる。

シダの後退に一層の拍車をかけているのが人間による自然破壊である．宅地開発が進み，その開発が自生地の破壊と同時に，環境に大きな変化を起こさせている。大気の汚染などの影響もまもなくあらわれてくるかもしれない。